

平成 15 年度第 2 回評議員会議事録

1. 日 時 平成 16 年 3 月 14 日 (日) 10:30~14:00

2. 場 所 東京夢の島マリーナ マリンセンター 2階会議室

3. 出席評議員 (順不同・敬称略):

(加盟団体) [東北・北海道水域] 北海道:秋本正、外洋津軽:大瀧明 (委)、外洋北海道:北村完二 (委)、青森:平久保長蔵、岩手:榊頭治 (委)、宮城:相澤孝司、秋田:佐藤利秋 (委)、山形:斎藤和久、福島:佐藤利松、外洋いわき:平崎正文 (委)、[関東水域] 茨城:小野尚士、群馬:中川淳、埼玉:石井次男、千葉:國府田由隆 (委)、大原末光、土橋茂洋、東京:田中耕司 (委)、小山泰彦、渡辺健二、鈴木修、神奈川:浜崎濠次郎、林幹雄、竹田義幸、山梨:羽田定造、新潟:立川喜代博、長野:小山利男、横山真 (委)、静岡:中嶋浩二郎、外洋東関東:横田光夫 (委)、外洋東京湾:大村雅一、足立利男 (委)、地曳源樹、野口隆司、外洋三崎:川久保史朗、山中昭弘 (委)、前田泰明 (委)、中里英一、外洋三浦:外山昌一、平賀威、最川隆 (委)、外洋湘南:浪川宏 (委)、榛葉克也、渡辺康夫、外洋駿河湾:山田良昭 (委)、[中部水域] 愛知:森信和、岡田彰 (委)、岐阜:伊藤和典、三重県:景山裕二、外洋東海:丹羽徳子、渡辺行彦、坂谷定生、森岡稔夫 (委)、大島茂樹 (委)、鈴木史郎 (委)、[近畿北陸水域] 京都:岩崎勝 (委)、武市進作 (委)、滋賀:山田将人、福井:高間博之 (委)、石川:松田孝一 (委)、大西治夫、富山:番匠茂、[関西水域] 外洋内海:植松由量、瀬川洸城 (委)、猪上忠彦 (委)、妹尾達樹、兵庫:川上宏、和歌山:目瀬好男 (委)、[中国水域] 島根:幸野孝治 (委)、広島:瀬尾潔、外洋西内海:金井寿雄 (委)、鳥取:善波周、山口:藤岡悍、岡山:馬場正彦、岡山:谷貢 (委)、[四国水域] 高知:文野順夫、愛媛:黒川重男、徳島:石井良直、[九州水域] 福岡:岩瀬広志、佐賀:松山和興、長崎:藤田邦行、熊本:山内啓次、鹿児島:大迫哲弘、沖縄:柳生徹夫、外洋南九州:橋元幸一、外洋玄海:久芳志治 (委)

(特別加盟団体) 全学連:杉山嘉尚、高体連:澁谷有人 (委)、ジュニア:中根健二郎 (委)、実業団:原秀顕 (委)、自治体:小宮三雄、ヨットクラブ:野尻敦也 (委)、J24:中澤信夫、470:五味克博、シーホッパー:山近雅彦、レーザー:木村治愛、ウイントサーフィン:千葉貴生、FJ:古屋勇人、スライブ:澤村治男 (委)、テニサー:本吉譲治、シートのスポーツ:平林滋

以上出席 100名 (内委任状出席 34名)

欠席評議員:(加盟団体) [関東水域] 栃木:森谷茲充、神奈川:望月巖、外洋三崎:服部正敬、外洋三浦:藺信雄、[近畿北陸] 滋賀:江口恒信、外洋近北:笠原文和、[関西水域] 外洋内海:稲継一洋、馬場益弘、大阪:長尾宏、岩崎清彦、奈良:中井靖典、和歌山:山本嘉一、[中国水域] 広島:寺西佳弘、外洋内海:長浦勝則、[四国水域] 香川:中山道照、[九州水域] 大分:後藤督、宮崎:後藤眞宏、(特別加盟団体) シーホース:北川浩司、OP:国見悦朗、49er:高野学、Int. 14:萩原賢一、420:大橋正敏、ヒーター:宮川時男

以上欠席 23名

(代理出席) 群馬：新井、京都：秋田、香川：葛西、沖縄：有銘、高体連：盛谷、スナイ
プ：岡 以上 代理出席 6名

(その他出席者)

名誉会長：秋田博正、会長：山崎達光、副会長：戸田邦司、河野博文、専務理事：松田
健次郎、常務理事：富田稔、昇隆夫、理事：伊藤宏、大庭秀夫、児玉萬平、鈴木保夫、
棚橋善克、前田彰一、倭千鶴子、高橋順一、稲葉文則、水谷益彦、河内道夫、中山明、
小田泰義、秋山雄治

監事：高田尚之、藤沢誠一

顧問：松本富士也、小田切満寿雄

委員会：大山俊哉（広報）、山田敏雄（競技力向上）、平賀威（事業開発）、川北達也（ルー
ル）、名方俊介（レース）、斉藤威（指導者）

オブザーバー：奥村雅晴

以上その他出席 32名

4. 議題事項

- 1) 平成 16 年度事業計画 (案)
- 2) 平成 16 年度予算 (案)
- 3) 報告事項

5. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 123 名中、出席 100 名（内委任状 34 名）で、寄附行為第 34 条 5 項に基づく
定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

寄附行為 34 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は森信和に決定し、平成 15
年度第 2 回評議員会の開催を宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、浜崎濠次郎、平賀威の両氏が任命され、承認
された。

(山崎会長挨拶)

山崎会長より、本会におきましては平成 16 年度事業計画および予算等の重要案件につ
き評議員各位の同意のほどお願いしたい旨、挨拶があった。①JSAF 健全財政に向け、賛
助会員のさらなる獲得、メンバー会費値上げの検討、スポンサー付きレース等の問題に
前向きに取り組むたい。②アテネオリンピック代表選手決定につき、5 月 26 日連盟理事
会において最終決定する。③埼玉国体におけるヨット競技において、遊水池という特性
を活かし、見せるスポーツを築き上げていただきたい。④愛・地球博パートナーシップ事

業に JSAF が積極的に関与していく。⑤各委員会活動、会長特命チームの再活性化をはかり、また環境問題の重要性から「環境問題担当」委員会を新たに組織するとの発言があった。

議題 1) 平成 16 年度事業計画 (案)

松田専務理事より資料に基づき、平成 16 年度事業計画 (案) について説明があった。平成 15 年度との変更点は、外洋特別委員会を外洋統括委員会に変更、外洋統括委員会内の小委員会を通常委員会に、レース委員会内の小委員会を委員会へ、環境問題担当委員会の新設が主な変更点との説明があった。

質疑等なく、満場一致で同意を得た。

議題 2) 平成 16 年度予算 (案) について

鈴木理事より資料に基づき、平成 16 年度予算 (案) について説明があった。16 年度予算 (案) は、15 年度に対し収入は 3%、支出は 5% 増となったが、引き続き財務状況が厳しいため、全日本レベルのレースに対する助成金は見送ることとした。しかし、レースに対する助成は重要な事業であることから、新たに財源を確保して助成できるよう研究していくこととした。また、メンバー登録の効率を図るため、システム構築費として 200 万円を事業費に計上した。

一般会計の収入については、

会費収入	賛助会員の増強に努め、2,428,000 円の増額とした。
団体負担金収入	15 年度予算と同額を見込んだ。
登録認定料収入	SS 級協会の特別加盟団体化等により、約 100 万円の減額とした。
事業収入	主に、艇計測料の値上げによる計測料収入の増額、ルール委員会の A 級ジャッジ講習会、レース委員会のレースオフィサー講習会、指導者委員会の C 級コーチ講習会等の講習会収入、R R S の改訂に伴う販売収入を増額した為、事業収入全体で約 1,200 万円の増額となった。
補助金収入	日体協からの補助金収入は増えたが、スポーツ振興基金からの助成金が減るため、約 327 万円の減額とした。
負担金収入	スポーツ振興基金からの助成金が減った事により約 127 万円の減額とした。
募金寄付金収入	ほぼ 15 年度並とした。
五輪基金関係収入	180 万円の減額とした。
雑収入	ほぼ 15 年度並とした。

以上の結果、15 年度に比べ 4,199,400 円増額となり、当期収入を 159,199,400 円とし

た。

支出については、

事業費	スポーツ振興基金の事業費が約、886 万円、総合賠償責任保険保険料が 125 万円、雑費も約 90 万円の減額となったが旅費交通費、印刷製本費、業務委託費（計測委員会）、講習会開催費等が増額となった。また、メンバー登録システム構築のため 200 万円を計上したため事業費総額では約 416 万円の増額となった。
管理費	15 年度とほぼ同額とした。
積立預金支出	賞与引当金を計上したため、80 万円の増額とした。
繰入金支出	平成 14 年度の決算において、オリンピック特別会計の資金不足を補うため、1,100 万円を一般会計から繰り入れた。このうち 480 万円を 15 年度予算で一般会計に戻し、残りの 520 万円を 16 年度に戻すこととなっていた。この 520 万円と、事務局におけるオリンピック事務負担等の 400 万円の合計 920 万円を一般会計に繰り入れるため、アテネの広告料収入 1,710 万円から 920 万円を差し引いた金額、790 万円をオリンピック特別会計に繰り入れて精算することとした。

結果、予備費を 5,233,400 円とし、15 年度に比べ 7,436,400 円の増額となり、支出合計 159,199,400 円の予算となった。オリンピック特別会計からの 520 万円の戻し金を考慮すると、16 年度は単年度で 520 万円の赤字予算となった。

オリンピック特別会計の収入については、JOC 委託収入が約 1,300 万円、負担金収入が約 600 万円、新たに協賛金収入が 500 万円増えたことにより、15 年度に対し、25,774,000 円の増額となり、当期収入は合計 81,290,000 円となった。支出については、JOC 委託事業の海外特別強化合宿費等が 938 万円、TOTO 助成金が約 83 万円、アテネ特集号の制作費が 216 万円増え、自主計画事業は約 432 万円の減とした。予備費を 395 万円の増額とし、合計で 15 年度に対し、19,172,500 円増額となり、81,290,000 円となった。

免税募金特別会計は、15 年度はメルボルン～大阪ダブルハンドレースの募金があったが、16 年度は事業がないため、7,068 万円減の 13,170,000 円となった。

また、平成 16 年度予算（案）のバランスについての内訳及び配分は、固定収入（継続性があり、収入の予測がたてやすい収入）と管理費等の固定費とのバランスは、収入 77,430,000 円に対して、支出は 85,506,000 円と 8,076,000 円の赤字となる。国際、広報、事業開発をのぞく委員会（事業）の収入および支出は、収入 52,162,000 円に対して、支出は 50,040,000 円と 2,122,000 円の黒字となる。その他の収入及び支出は、収入 29,605,000 円に対して、支出は 23,660,000 円と 5,945,000 円の黒字となる。

以上より、現在の JSAF 収支は全体としてはバランスがとれているものの、管理費お

よび会報誌等の固定費不足を、事業収入およびその他収入で賄っている。今後、JSAF 財務状況を改善させるためには、①固定収入で固定費が賄えるようにする。現在の固定収入との不足分約 800 万円の財源を確保する必要がある。②事業収入を全額事業支出に回せるようにして JSAF 各事業をさらに活性化させる、等に取り組む必要がある。

加盟団体及び特別加盟団体負担金の内訳については、メンバー登録料および団体負担金の内訳を表に示した。

メンバー 1 人当たりの登録料の支出内訳は、4 年会員、高校生、ジュニアとそれぞれメンバー登録料が異なるため、正確に算出することは難しいが、一般会員に換算するとメンバー数は 10,000 人で登録料は約 5,500 万円になる。16 年度予算（案）では 1 人当たり 5,500 円に対する固定費の支出配分は、一人当たり 2,516 円の赤字となっています。保険料、J-sailing 発行費、交付金で 3,245 円の費用がかかっている。この不足分を賛助会費、団体負担金、事業収入等で賄っているとの発言があった。

全日本学連の杉山評議員より、平成 16 年度全日本レベルレースに対する助成金は見送ることは承諾したが、新たに財源を確保してレースに対する助成の具体的な内容について説明いただきたい旨、質問があった。

同意を得た。

報告事項

- (1) 松田専務理事より資料に基づき、平成 16・17 年度評議員候補者は理事会で承認された旨、報告があった。
- (2) 河野副会長より資料に基づき、愛・地球博パートナーシップ事業（国際セーリングシリーズ推進協議会）について報告があった。
- (3) 埼玉県石井理事長より資料に基づき、第 59 回国民体育大会セーリング競技に伴う公開練習会について報告があった。
- (4) 昇国体委員長より資料に基づき、国体採用艇種変更について報告があった。国体成年女子 2 人乗種目は平成 13 年宮城国体より、スナイプ級、セーリングスピリッツ級の併用で行われてきたが、平成 17 年岡山国体よりセーリングスピリッツ級単独開催とする旨、発言があった。
- (5) 中山総務委員長より資料に基づき、団体電子メールアドレスの登録について報告があった。電子メールを利用して、迅速かつ充実した情報交換を実現する目的で、加盟・特別加盟団体へ各団体の電子メールアドレスの登録をしていただきたい。また、平成 16 年度メンバー登録につき、会費納入ならびに団体負担金につき既存メンバーについては、4 月中に手続き完了をお願いしたい旨、発言があった。
- (6) 名方レース委員長より資料に基づき、平成 15 年度レース・マネジメント・セミナー、

NRO 及び ARO 認定講習会(試験)、及び CRO 認定講習会等について報告があった。
平成 16 年度は RRS 改正に伴って、レース・マネジメト・セミナー更新講習会をジャッジ等更新講習会時に開催する。また、特別加盟団体(艇種別等)を対象にしたレース委員会会議を本年 5 月 14 日(金)に開催する旨、発言があった。

東京都の小山泰彦評議員より、①ARO から NRO への段階を経て、資格取得が原則なのか、②資格取得者の連絡網を充実させて派遣する制度等も考慮いただきたいとの質問があった。

- (7) 川北ルール委員長より資料に基づき、ルール委員会報告があった。B 級ジャッジ資格喪失者一覧、RRS 改正に伴う更新講習会等の説明があった。ジャッジ・アンパイアの更新講習会に確認のための試験実施を試みたいとの旨、発言があった。

外洋三浦の外山評議員より、B 級ジャッジ資格喪失者にメンバー会費入金確認されているメンバーがいるので再確認されたい旨、発言があった。

- (8) 伊藤会員増強委員長より資料に基づき、平成 16 年 3 月 10 日現在のメンバー登録状況について報告があった。

- (9) 倭レディース委員長より資料に基づき、アテネオリンピックセーリング競技日本代表選手団激励壮行会を、高円宮妃殿下ご臨席の下、平成 16 年 6 月 11 日(金)、社団法人日本外国特派員クラブで開催するとの報告があった。また、国体におけるチャイルドルームの設置についての発言があった。

以 上

森議長から他に意見・質問を求めたが、特段なく終了した。

本日の評議員会の議題は上記の通り議決承認されたので、議事録署名人は次に記名捺印する。

平成 16 年 3 月 14 日

議 長 森 信和

議事録署名人 浜崎濠次郎

議事録署名人 平賀 威